

## スクールリーダー／ミドルリーダーをどう育てるか

### —ケースメソッドを手法として—

(平成30年2月22日実施・ワークショップ&講演会報告書)

平成30年2月22日(木)(13:00~16:00、於:島根大学教職大学院カンファレンスルーム)、標記のワークショップ・講演会を、島根大学教職大学院授業公開を兼ね開催しました。講師には、理論・実践面においてスクールリーダー研究の第一人者である元兼正浩氏(九州大学教授)をお招きしました。当日は、年度末のご多忙の時期にも関わらず、島根県教育委員会・近隣の学校教育関係者の多数の参加者を得ることができました。ご参加の皆様、ありがとうございました。

#### 【第一部: ケースメソッド・ワークショップ】

本教職大学院の熊丸真太郎准教授による説明の後に、参加者全員でケースメソッドに取り組みました。島根県内でも外国人児童・生徒の増加しており、そのための適切な児童生徒支援・学校経営が求められていることから、「国際化は突然に・・・」(※)という題されたケースを用い、ディスカッションをしていただきました。



※『「校長の専門職基準」準拠 ケースメソッド事例集』(科研費(B)(研究代表者:牛渡淳)「専門職基準に基づく校長の養成・採用・研修プログラムの開発に関する実証的研究」報告書)より。

#### 【第二部: 元兼正浩先生講演会】

元兼先生より「これからのミドルリーダー(スクールリーダー)に求められるもの」と題した講演を頂きました。学校・管理職をとりまく政策・状況の変化、スクールリーダーに求められる資質・能力についての理論的説明の後、ケースメソッドを管理職研修に導入することの意義、第一部で用いたケース「国際化は突然に・・・」の解説、それをおとした学校経営の視点についてお話いただきました。実際の学校状況と教育経営の理論に基づく熱い講義で、今後の山陰地域の教師教育、教員研修にとって貴重な視座を得ることができました。

